

はしがき

この本は英語が読めるようになる本です。英語の本なので当たり前ですね(笑)。では、数ある英文リーディングの本と本書はどんな違いがあるのでしょうか。

まずは以下の質問に YES か NO で答えてください。

- 質問1** 英語がそもそもさっぱりわからず、学校でも苦手だった。
- 質問2** 教科書の英語はわかるが、入試英文や資格試験の英語、英字新聞などはまったく読めない。
- 質問3** ごく短い文ならなんとかわかるが、2~3行にわたる長い文が読めない。
- 質問4** 英語は単語さえわかればなんとかかなると思う。

1が当てはまる人はぜひ本書を読んでください。きっと人生が変わりますよ。

しかし、この本をいま手にしている人は、質問2以下が YES の人ではないでしょうか？ 学校の英語の成績はまあまあ良かったが、いざ自分で読もうとすると読めないタイプ。例えば、入試英文や英検などの資格試験の英語など、みなさんが「実力試験」と呼ぶものが読めないというタイプですね。

つまり、ごく普通の英語学習者の悩み(課題)は以下の3つではないでしょうか？

- 悩み1** 先生や参考書の解説はわかるが、いざ自分で読もうと思ったとき読めない。(試験の英語など)
- 悩み2** 「長い文」が読めない。「公的な」文章が読めない。(英字新聞、洋雑誌など)
- 悩み3** 単語の“つなぎ方”がわからない。(英文を読むのに、単語以外に何が必要かわからない)

本書はこの3つの悩みを解決する本です。

それでは、どのように解決するのか？

重要なことは「**どうやって**」読めるようになるのか、**その方法論**だと思いますので、他書にはない**本書の5つの特徴**をご紹介します。

1. “解説”ではなく“指示”をするので「自分で」読めるようになる

通常、英語の授業や本というと先生や著者が英文の解説をしていくだけで、いざ自分で読もうとするとまったく読めないということはないですか？

いわば釣りの名人がそばにいて、釣った魚を与えてくれるだけ。しかし、その釣り名人の先生がいなくなると途端に魚が食べられなくなる。

そうではなく、「魚の釣り方」をマスターすれば、一生自分で魚を採って食べられますね。

本書では、英文の「解説」ではなく、**英文に出会ったときあなたがどう読むかの「指示 / 指図」(インストラクション)**をします。

「こんな文に出会ったら」→「ここを見て」→「このように判断して読んでください」という指示です。対処法と言ってもいいでしょう。そうすれば、これから出会う文を「自分(自力)で」読んでいけるようになるのです。

あなたがこれから英文を読む際に出会う可能性のあるパターンを分析して、パターンごとの読み方を伝授します。

すべてのパターンをマスターしたら、読めるようになるのは当たり前ですね。それが**英語のゴール**なのです。今までにない発想ですね。

2. オリジナルの「設計図」に書き込んでいく

理論だけでなく、実際に手を動かし、私が作ったオリジナルの「設計図」に書き込んでいってもらいます。

そうすることによって、英語を読む感覚がマスターできるはず。

私の受講生(後述)がよく言うのは、「**昔は単語がただ並んでいるだけに見えたが、今は並んでいる意味がわかる**」というセリフです。本書の設計図を使って練習すると、こういう感覚が得られるようになります。

3. 情報の宝庫である「前半」に特化

そして英語の「前半」に着目する方法を教えます。実は、**ここに特化すると英文が読めるようになる**のです。ここが情報の宝庫だからです。

長文の前半なのか、センテンスの前半なのか、1文の前半なのか、くわしくは本文で紹介しますのでお楽しみに。

英語がマスターできるかどうかの分かれ目、超重要ポイントなのです。

4. 「公的な文章」の読み方がわかる

みなさんが読めるようになりたい文、読めるようになる必要のある文は、「公的な文章」です。

“公的な”文章とは、英字新聞、洋ジャーナル(専門雑誌)、論文などですね。これら公的な文章を読めるかが問われるのが各種英語の試験(入試英文やTOEIC®、英検など)なのです。

小説や絵本、歌詞など「非公的」な文章はスラングなどが多い場合がありますが、**公的な文章にはある特徴があって、その特徴さえわかれば、簡単に読めてしまう**のです。

「公的な英文の特徴、特殊な性質」——これは今までどんな本にも書かれていないと思います。

5. 実際の「授業」の再現

この本はただ頭の中で考えた机上の空論ではありません。

私が自分の勤務する大学で英語の苦手な学生に対して行った実際の授業を再現したものです。

いわば、**すでに効果のあった方法を再現していますので、その効果は実証済み**です。英語が超苦手な大学生がどこでつまづくのか、どうすればわかりやすいか、どういう順番で教えれば克服できるかなど、いろいろ試行錯誤して、英字新聞やそれを使った入試英文など公的な文章が読めるようになり、期末試験でほぼ全員満点が取れるようになるまでの軌跡(奇跡?)を描いています。

英語が苦手な人がどこでわからなくなるか検証済みということです。

ですから英語が苦手な人でも大丈夫です。むしろ、そういう人にこそ読んでほしい本です。

以上、本書の他書にはない特徴をまとめてみました。

本書が対象としているのは、大学生や高校生などの学生、ビジネスパーソンや主婦の方などの社会人の方で、特に英語に苦手意識のある人です。

いわば英語が読めるようになりたいすべての人が対象です。

「英語が読める」という力は強力なので、ぜひこの力を使って羽ばたいてほしいのです。

英語が得意な人はこんな考え方もあるのか、こんな風に教えればいいのか、などと参考にしていただけたらと思います。

本書を読み終えたとき「英語が読める」という感覚が味わえるはず。
ぜひ試してみてください。

そして、本書の「卒業試験」で受講生と同じように満点が取れるか、トライしてみてください。

それではいよいよ始めましょう。

あなたの人生を変えるかもしれない授業のスタートです。

2020年6月

かんべやすひろ